

# スローショッピング

認知症になってもやさしいスーパープロジェクト

岩手県滝沢市の「認知症について理解を深め、高齢者や障がい者にもやさしいまちにしたい！」というプロジェクトの第一歩として始まった「スローショッピング」についての紹介です。

## 認知症になってもやさしいまちづくり (岩手県滝沢市の例)

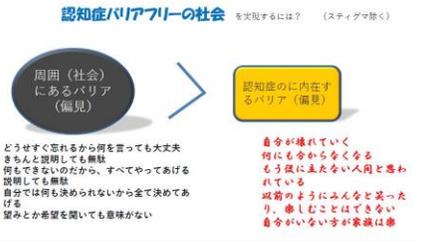
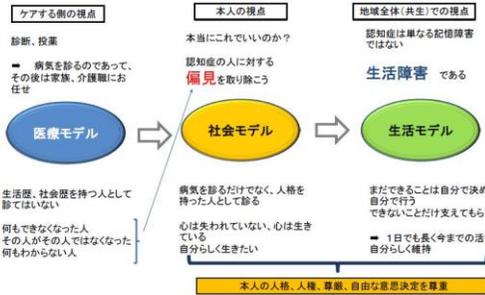
「認知症になると何もわからなくなる…とっていませんか？」

認知症の症状は様々ですがその中で**出来ることはまだあるはず**です。

認知症を正しく理解して偏見をなくしていき認知症バリアフリーの社会を実現する取り組みです。

※スローショッピングの取り組みを紹介するスライド資料です。

認知症と診断されて  
閉じこもってしまう…  
社会との接点を失いがちにしやすい…



認知症を理解すれば無くすることができる  
周囲(社会)にあるバリア(偏見)

認知症の内在するバリア(偏見)

自分を取り除くことは困難  
認知症の内在するバリア(偏見)

**紺野先生は、普段の診療で認知症の人へ「自分で買い物をしてみたいですか？」と聞いてみました。**

すると、ためらいを見せながらも「**買い物を自分でしてみたい**」と答える方が多かったです。

しかし実際には「もともとは買い物をして料理をしていた方ですが認知症と診断され家族に付き添われ一緒に買い物に行くが殆どは家族が買って本人はただ傍にいます…」という方はたくさんいます。



それまで行っていた買い物に行かなくなった理由を当事者に聞いてみると



他にもレジで手間取っていた時、レジの人が親切心で私の財布から小銭をカウンターの上に広げ必要な金額だけを取って返された。すごく傷ついた。などと誰にとっても便利なスーパーは高齢者、認知症のある人にとっては不便なことも多くあります。

このような声を聞いて、生活モデルの実践をスーパーマーケットでしてみたいと数年考えてできたプロジェクトが

# スローショッピングです。

『スローショッピング』については、岩手西北医師会認知症支援地域ネットワーク(やまぼうしネットワーク)代表 こんの脳神経内科・脳神経外科クリニック 紺野 敏昭医師より、資料のご提供を頂きました。



